

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ 主体的な遊びの大切さを再認識できた内容でした。自分もかつては子どもであったことを忘れずに、日々子どもたちと接していきたいと思います。また、コミュニケーション能力の低下や非認知的能力の低下が多くなってきていることを知り、今一度自分が何を子どもたちに伝えていけるのかをしっかりと考えていきたいと感じました。
- ◆ 放課後児童クラブで子どもを預かる時、子どもは守るべき存在という意識で接していたため、「子どもを尊敬の心をもってみる」という言葉に子どもの見方を変える必要があると気付かされました。普段は子どもたちも私たち職員も楽しむということを第一にして何を遊ぶか決めてしまいがちです。楽しむことだけでなく、学ぶことにも重点をおき、子どもが学びを得ることができる時間を過ごせるように環境を整えていきたいです。
- ◆ 子どもたちが遊びからどれだけのことを学び、自らや他者への理解を深め、考える力を付けているのか気付かされました。子どもが友達とつくり上げた「名前のつかない遊び」も大事な発育のきっかけになっていることにより、思い至った自分がいました。他ならぬ私もそんな遊びをよくしていた子ども時代があったのに、つい本来のルールに縛られ、いかに言うことを聞かせられるかばかり考えてしまっていたように感じました。
- ◆ 遊びと学びは別物ではないことや、遊びを通して育まれる能力についてなど、改めて理解を深めることができました。個性・発達段階・主体性という部分を常に留意しているものの、特に支援が必要な子だったり、コミュニケーション能力の低い子だったりに気を取られてしまい、なかなか平等に関わりを持ち見守ることができずにいることが悩みです。放置ではなく、自主性を重んじる活動になるように常に目配り・心配りを心がけていきたいです。
- ◆ 子どもにとって遊びがどれだけ大切かということを知ることができました。子どもは遊びの中で様々なことを学んでいたり、病原体への免疫を獲得していることが分かりました。支援員主体の遊びをするのではなく、遊びを通じて子どもが成功や失敗を体験することで、子どもが成長できるように援助していきたいです。